



宮津市では、海に臨む浜町の宮津阪急ビル(ミップルビル)内に市役所庁舎を移転集約することについて検討を進めている中で、海に臨む「島崎・浜町ウォーターフロントエリア」を民間事業者と連携して活性化していくことを目指し、活性化検討委員会を令和6年7月に設置して、臨海エリアの活性化に向けた検討を進めています。

現時点の「島崎・浜町ウォーターフロントエリアの活性化の考え方」は以下のとおりであり、海に臨むエリアを「交流拡大」「文化・スポーツ振興」「民間誘致」の3つのゾーンにわけ、「地域住民」「自治体(市)」「民間事業者」のそれぞれにとって良い形になるよう、民間事業者と連携してエリアの活性化を進めていくべきと考えております。

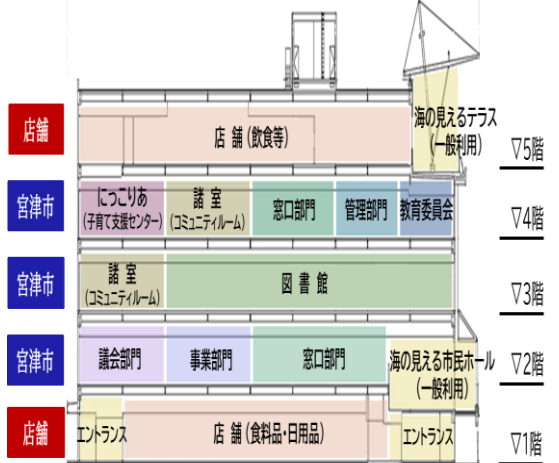
海に臨むミップルビルに市庁舎を移転集約



市庁舎の整備は、本館・別館等の老朽化、耐震不足などのほか、庁舎分散やエレベーター未設置など市民サービスにも影響があり、先送り出来ない課題となっております。

そうした中で、「ミップルビルを市が所有して、商業機能と行政機能の複合施設にする」とともに、2028(令和10)年秋を目途に「2階から4階を市役所庁舎とし、分散している庁舎を移転集約する」基本計画がまとまったところです。

なお、ミップルビル1階と5階は食料品・日用品・飲食等の商業店舗として継続する中で、出入口、駐車場・駐輪場は、全て商業施設と市役所庁舎との共用として使用する前提になっています。



海に臨む交流拡大ゾーンとして島崎公園を活かして海も活用した「道の駅」へのリニューアル



「道の駅 海の京都 宮津」として2015年11月のオープンから約10年経ちますが、「海という名称から連想されるイメージと実際の提供サービス等とのギャップに物足りなさを感じる」という声、交通量等からみて逃している利用者がいることなど、改善すべき課題があります。

この間、調査も行う中、課題解決に向け、「直売所や飲食施設を少なくとも倍程度にするなど公共投資により施設規模を拡大すれば、民間事業者の効率的な運営のもとでノウハウ等が発揮された、観光客のみならず地域住民にとってもより利便性の高い道の駅になっていく」ことなどが見えてきたところです。

そうした中、中心市街地にぎわい創出やウォーターフロント開発につながるよう、「島崎公園を活かした形で民間事業者の参画によって道の駅のリニューアルを進めるべき」と考えております。

そのために、まずは、駐車場などの課題を整理しつつ、民間事業者の参画を受けるための準備を進めていくべきと考えております。



海に臨む文化・スポーツ振興ゾーンとして市民の憩いの場の維持・向上



みやづ歴史の館や島崎公園グラウンドなどの公共施設がある海に臨む部分は、「引き続き、市民の憩いの場として、文化やスポーツの振興につながるゾーンである」と考えております。

そうした中、みやづ歴史の館の長寿命化を図っていくなど、「市民の憩いの場である公共施設としての維持・向上を進めていくべき」と考えております。

海に臨む民間誘致ゾーンとして民間事業者への誘致



休止中の宮津会館や旧図書館施設などの遊休施設がある海に臨む部分は、交流拡大ゾーンに人がさらに集まってくれば、「民間事業者による利活用(開発)が進む可能性が高まっていくゾーンである」と考えております。

そうした中、「島崎公園を活かした形で民間事業者の参画による道の駅のリニューアル」の動きも示しながら、「民間事業者の誘致を進めていくべき」と考えております。

※島崎・浜町ウォーターフロントエリア活性化検討委員会の会議資料・会議録については市ホームページにて公開中

